



みんな輝け和泉っ子

和泉

1 月号

新年明けましておめでとうございます。

校長 平井 克明

昨年中は、地域・関係機関の皆様や保護者の皆様には、和泉小児童・職員のために、多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。今年も宜しく願い申し上げます。



「スポーツで夢を与えた人の伝記」

東京オリ・パラ招致委員会：佐藤真海さん

より引用

限界のふたをはずそう

「1年の計は元旦にあり」と言います。健康な毎日が過ごせるよう規則正しく、計画的な日々を過ごしたいと思います。

さて、今年は7月・8月に東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。和泉っ子図書館にもオリンピック・パラリンピックに関する本が何冊も並んでいます。この本の中に今回の東京オリ・パラ招致委員会のメンバーである佐藤真海さんの記事を見つけました。本の内容を少し紹介すると、真海さんは大学2年の夏に骨の癌である骨肉腫を発症し、足を切断しないと命がないことを宣告されました。悩み悩んだ末、切断することを決心しましたが、真海さんは今まで仲良かった友だちにも心を閉ざし、会うことも嫌っていきました。

しかし、中学校から続けてきたスポーツが忘れられず、水泳や陸上と徐々に始めたそうです。しだいに足が不自由な自分にもスポーツができるという喜びが、真海さんを勇気づけていきました。真海さんは走り幅跳びを続けながら、パラリンピック標準記録3m66cmを超えるまでになっていきました。

2004年に初めて出場したアテネパラリンピックで9位を記録し、そして4年後の北京、8年後のロンドンと代表選手として活躍しました。そして、真海さんは2013年国際オリンピック委員会総会で、「スポーツは人を元気にさせ、生きる力を与えてくれる」と、東京でのオリンピック・パラリンピック開催の誘致を訴えました。「おもてなし」という言葉も同時に有名な言葉になりました。

こうして、2020東京大会が現実になりました。真海さんは本の中で、「限界のふたをはずそう」「目標を持つことが大切です。自分で決めた目標が大切です、人と比べる必要はありません。この目標に向かって、あきらめないこと、強く信じるのが、自分を成長させる秘訣です」と語っています。

今年は東京オリ・パラの年です。世界中から東京へ選手が集まってきます。直接その光景を見る機会があるかもしれません。特別な1年になることは間違いありません。直接的には関係ないかもしれませんが、そんな1年に向けて私たちも、大きな目標をもって過ごしていきましょう。

